

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

マザー・テレサの

ことば

子どもは
 神さまのおつくりになっ
 たもの
 この世への 国への
 家族への
 神さまのいちばん美しい
 贈り物です
 私たちは何とかして
 知らなくてはなりません
 ことばではなく、実際の
 行いのなかで
 どのように愛することが
 できるかを
 女子パウロ会 「ほほえみ
 マザー・テレサのことば」
 より

潜在的な生命

生命とは種の連続体で、人は皆その中の唯一無二の構成員である。生命は人から人へ世代から次世代へと伝えられていく。精子と卵子が結合し新しい生命を造り出す限り、人類は存在し続ける。もしその精子と卵子が生きたものでないとするなら、結合により生じるもの(胎児)も生命体とは呼べなくなる。

すなわち、「潜在的」人間などというものは有り得ない。私には子供を生む潜在能力はあるが、実際に妊娠したとなると、その胎児は生存するものに他ならない。子宮内にいる間の人間は、潜在的な生命体であるなんて全く馬鹿げた考えである。精子と卵子の結合、つまり受精の時点から全ての生命は始まる。妊婦について彼女はこれから

子供を生むのだというよりは、彼女には既に子供がいるという表現の方が適切だろう。



国内ニユース

生命の尊厳とは？

今年、京都で『胎児の生命の尊厳』をテーマに第一回国際バイオエシックス・シンポジウムが開かれた。オーストラリアのモナシユ大学哲学教授ピーター・シンガー氏によると、ヒトの卵子、精子、胚子などは将来ヒトになりうるものではあってもその段階でそれ自体は本質的重要性を持たない。ヒトが「人格」を持つのは知覚力を備え始める時期、つまりおよそ妊娠24週目くらいから、とみる。生存権が認められるのもその時期からで、したがってそれまでの段階では凍結受精卵の処分も人工妊娠中絶も胚子を使つての研究、実験も道徳的に問題はない、との考えだ。

読売新聞5月25日付

「母親か子供か」か？

「女性の生き方と生命尊重がぶつかる人工妊娠中絶論争」と題する記事では、「胎児の生命のみを問題とし、胎児をこの世に送り出す母体の尊重をとり上げない、生命「尊重」派の動きも顕著だ。」と述べられている。

朝日ジャーナル6/1号

母親の権利、人生ばかりを問題にしているのが今の社会の大きな動きではないだろうか。新聞や雑誌で取り上げられている内容も、母親、女性に焦点が当てられていて、胎児は「中絶されても仕方がない」ことが前提になっている。草の根的に頑張っている生命「尊重」派の人々の真の活動を知ってください！

「プロ・ライフ」

国際ニュース

『アイスランド』

アイスランドで中絶反対派の運動が着実な進展をみせている。先日、テレビを通じて中絶問題をめぐる討論会が全国的に放送され、その番組は「中絶反対派の勝利」という結果に終わった。さらに、最近ある政党からは政治的な政策の一環として中絶に対する反対運動を起こす必要性の声まで上がっている。現在ラジオの一独立放送局では中絶反対を取り扱った番組が定期的に放送されているが、さらに他の局でもこのような番組が放送されるよう、交渉がすすめられている。このように種極的に活動している中絶反対派のグループは、フランスで発明されて話題になっている胎児を抹殺する効用を持つ中

絶剤RU486に対する抗議も行っているが、マスコミの注目がこれに集中、大々的に取り上げられた。

『奨励されるインドの

中絶反対派』

「インドにおける中絶反対の協会や運動はその発展を目指して奨励されていくべきだ。」ヨハネスパウルス教皇は、最近訪れたローマにて、インドカトリック司教団にこのように話した。さらに教皇は、「インドにおいて、中絶をはじめ、嬰兒殺しや安楽死を法律で正当化しようとすることは、神聖なものであるはずの生命を汚すことにつながる」とまで付け加えた。

『香港の高い中絶率』

香港で一九八八年に行われた中絶の数は、およそ一万五千件に上り、前年度に比べて20%以上も増え

ている。そのうち8割は、既婚の女性を対象に行われたとされている。香港では一九七三年、初めて中絶が認められた。この調査によると、一九八八年度に10代の母親に行われた中絶は970件。これは、その当時と比較すると80倍も増えている。

ABORTION

QUESTION & ANSWERS

人生の始まりはいつか

民族国家が果たすべき最大の義務は、市民にとつて最も大切な所有物、すなわち彼らの生命を保護することにほかならない。生命尊重について法律を制定する際には、人生の始まりをいつと見なすか決定を下さなければならぬ。これからその解明を試みたい。

どこからが生命の始まりか

この問いに対する宗教的、哲学的、生物学的見地からの解答を紹介したい。今日、これらの価値観が乱立し、混乱を招いている。おのおの説得力ある説をうち立てているが、法律作成の際はその中から一つの価値観のみを採用する

ことになる。

宗教学的定義付け

宗教、信仰、神靈的立場は、魂の創造をもって生命のはじまりと見なす。ここで問題となるのは、魂がいつ創られるのか人によって意見が異なることである。あるいは、もともと魂など存在しないと考える学識者も多い。今世においては、ある特定の信仰を法律を通じて全てのの人に押しつけてはならない。よって宗教的人生の始まりについての定義付けは法律には採用できない。

哲学的定義付け

無数に存在する定義の中から抜粋すると、人間の誕生、意識が一定段階にまで発達した時期、その存在が何らかの形で必要とされている、相互愛の存在、一定の人格的及び文化的発達、自足性、身体的発達、ある程度の心身の完成な

どをもって生命の始まりを定義している。それらの定義中には幾つか共通点が見られる。それぞれの説について十分な思考過程を経ているにもかかわらず、依然として諸説は学説の域を出ない。

・科学的説明ができない。
・人はすべて独自の哲学的信条を持つ権利を有する。

・人は又は前述以外の、全く異なる価値観を有することができ。

以上の諸説は立証不能ゆえ、先述の宗教的価値観を万人に押し付けられないのと同様に、哲学的学説も法律に採用できない。

生物学的定義付け

自然科学は立証済みの事実を基礎とするため反論の余地はない。生物学は単細胞期から死亡までの時期を生命とみなし、それ

に対する十分な証明がなされている。人間の一生について論じる際、まず胎生学、薬理学に目を向けるべきである。それらの学問による解明済みの事実を通して生命の始まりについて考えるべきである。

読者の声

「この悲しみは今だ消えませんが」

私は一人目の赤ちゃんから主人に中絶をせまられました。五年間の内に四人の男児を生みました。私の家は現在4人、四人の子供のできた時は3人、夫は長期出張が多く、帰ってくる度に出来たように思います。出来る度にどうしようか…という思いで悩みに悩みました。「おれはワンマンだ」という強い主人に私はとうとう負けました。お金がいるから困ると、五人目は強引に中絶させられました。私はクリスチャン、どうしても生みたかった、生まねばならなかった。残念で残念でたまりませんでした。この悲しみは今だ消えませんが。私も働いて、働いて働いてはぶっ倒れ、すぐ起きるは働きして何とかここ

までくれました。多くの愛ある人と、子供の自力と、親戚中の応援とで助けられてきました。今、長男は東大理化学部四年、次男は阪大医学部二年、三男は防衛大学三年、四男は東京医科歯科大一年と成人いたしました。「これから僕らが助ける番だ。頑張る！」と……。

二人の赤ちゃんごめんね（一人は流産、一人は人工流産）。家庭祭壇に祭つて、いつも会話しています。主人はクリスチャンではありませんでした。この人にどうしてもクリスチャンになってもらわなくては…との願いに十年前前、洗礼を受けました。中絶のことをどう思うという、残念なことをしたと思う……と。

（主婦）

中絶とは人間という生き物の小ささ悲しさそのもの。人間の浅はかな心から起こした罪に対して、人間が都合よく生命を処理する罪です。私たちは生まれる事を神によって許され望まれた命を滅ぼす権利はないはず。そしてその罪を一番悲しむお方は私たちの親である神。動物ですら子を立派に産み育て敵から守り犠牲をかってでる。彼らは自然すなわち神の中にどっぷり溶け込んでいる。人間も裸の心になり神の言葉を信じる以外救いの道はない。

私が一番思う事は世の中の人々に「現実」を知らせる事。大人にはもちろんですが特に子供達に教える事が必要だと思えます。この事をストリートに（例の中絶以後の写真、その胎児が更に別のモノを作る為に使用されている事などを）知らされるのはショックかと思えます。しかしそれは彼らの心の中に深く残るでしょう。彼らが大人に話したとしたら子供から教えられた大人は自分から見聞きするより考えさせられる部分が多いのではないかと思います。

私は今まで中絶という事を深く考えたことはありませんでした。私のまわりでは幸い中絶したという話も聞いたこともありませんし。でも中絶のビデオを見、感じたことは、どうして人はあんなに残酷な事ができるのだらう？ということなんです。命というものは大切なものです。

ビデオを見終わって、しばらくは、今観たのは画面上のことだけでない事実だ、ということすら解らなかつた。それを自分の頭がのみこんだと同時に、涙が止まらなくなつた。何が悪いのか私には解らない。ただ中絶の時に、ひきさかれる子どももの叫びを思いたい。生きている人間が自覚したい。

私は中絶のビデオを見るまでは中絶があんなにひどいものだなんて想像もしなかつたし、もちろん胎児のことなんてまったく知りませんでした。それだけにすごくショックも大きかつたし、命の尊さをあらためて感じました。私は10才時と19才時に計二人の友人を交通事故で失っています。その時僕らも当然悲しかつたです。周りの人はみんなまだ若いのにかわいそうだねと口をそろえて同情していました。だけど一番つらかつたのは彼らの両親だつたと思えます。それなのにせっかく命をさずかつてこれから世に出ようと必死に生長している胎児を両親の都合で殺すなんてあまりにもかわいそうすぎると思えます。やはり中絶する人は、中絶の実態を知らないんだと思います。だから中学や高校の保健体育の授業で強制

「女子」

「女子」

「女子」

とみんな人としてのあり方や命の尊さなど考えるべきだと思います。

「女子」

の保健体育の授業で強制

的に人工中絶のビデオを見せれば中絶をする人がぐっと減少すると思います。

「男子」

* 声を寄せてくださったのは、今年三月に専門学校を卒業し、社会に出たばかりの二十歳の若者たちです。卒業前に授業の中で、ビデオ『沈黙の叫び』『新しい生命を守るために』、及びプロ・ライフ・ムーブメントのカラーパンフレットと胎児モデル(若い生命)を使って、胎児の成長と中絶の実態、生命の尊厳などについて勉強したそうです。「皆一様に、中絶は罪であると、感じた様です。」と先生の言葉がありました。

「プロ・ライフ・

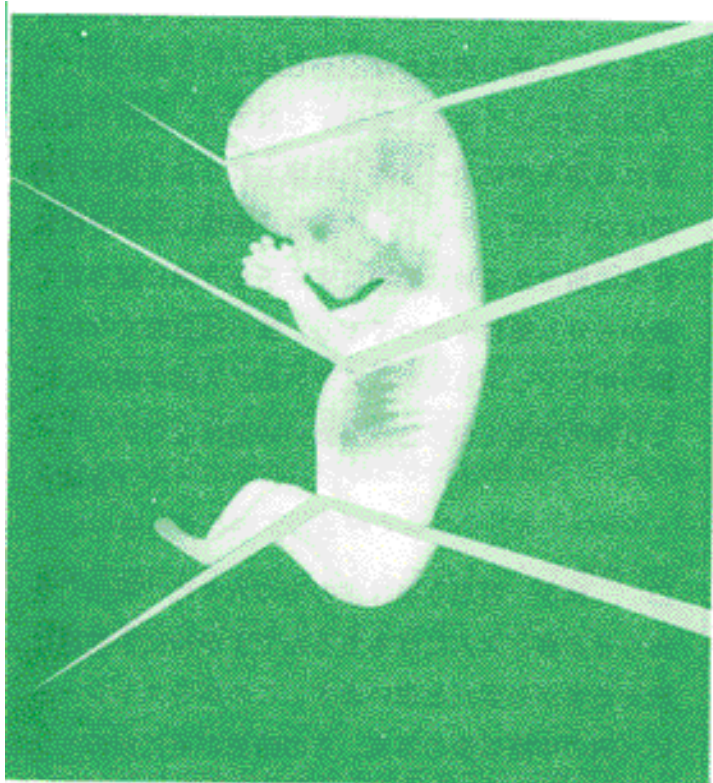
ムーブメント」

神の羽の中でいやされる

中絶後の女性が

心の傷をいやすための
7つのステップ

これはあなたのために書かれました。思い出や悪夢、罪悪感、後悔に対してです。あなたのように苦しんだ一人の人間が、愛情を込めて書きました。あなたが望んでいるように、心の傷が完全にいやされた一人の人間です。



ステップ1

勇気を持って認める

時間を取ってこのメッセージを読んで下さっていることに対して、まず拍手を送ります。助けが欲しい、と認めるには勇気が要りますから。あなたは中絶をする決心をしました。その時は、それが唯一自分に行うことができるのだと思いましたが、それでは、なぜ今あなたはこんな罪悪感に悩まされているのでしょうか。心の傷の後に訪れるはずだった、あの甘酸っぱいエネルギー、あの心の平和と人間的成長はどこへ行行ってしまったのでしょうか。

罪を否定しても、それはやってきてくれません。間違った決定をし、だから今苦しんでいるのだということ、あなた自身が勇気を持って認めなければなりません。中絶を勧めた力

ウンセラは苦しんでいませんし、あなたに圧力をかけた他の人たちも、おそらく苦しんではいません——あなただけが苦しんでいるのです。

芽を出したばかりの命を、あなたが死なせたのだということ、認めて下さい。如何なる理由があろうとも、過ちだったのです。あなたが後悔し、罪悪感に苦しんでいるのは、その過ちの結果です。でも絶望しないで下さい…希望はあります。

ステップ2

許すということ

中絶は神に対して、そして自分自身に対して犯す罪です。あなたの罪を、父なる神に打ち明けて下さい。(詩篇103:8-14) 心から神に祈りを捧げ、神のあなたへの愛と慈悲について考えて下さい、尊い主なる神があなたに手を差

し伸べられているのを、心の目で見て下さい。(テトスへの手紙3:5)

ステップ3

吐き出してしまおう

これ以上待っていないで下さい。赤ちゃんを失ったことを嘆かずに来たのならば、今嘆いて下さい。主イエス・キリストの前で、自分の胸を叩いて涙を流して下さい。神のお許しによって、気が狂う心配もなく、安心して嘆くことができます。神に大きな声で起きたことを一つ一つ打ち明け、自分の心を痛めて下さい。神の手が届いてあなたをいやすことができ

るように、心の傷をずっと奥まで開いて下さい。赤ちゃんについての考えや悪夢、望みのない夢は、みんな神に渡して下さい。なぜなら、「涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る」からです。主が

御自分の喜びを持つてあなたをいやしになれるように、時間を十分とって下さい。(詩篇94:18-19)

ステップ4

自分、そして

他人を許す

あなたは自分を許すという選択をしなければなりません。神はあなたを許すという選択をなさったのですから、あなたも同じようにすることで、神を尊

ばねばなりません。自分を許すというのは、漠然とした気持ちではありません——実行しなければならぬ決定です。大きな声で祈って下さい。「私を許して下さい。あなたを許して下さい。あなた以外に

は誰にありますか。怒りや裏切り、恨みや悲痛さなどの感情を、祈りの中で主に對して言い表して下さい。同じように言葉に出して下さい。感情的な力が戻ってくる、手紙を書いたり、電話をかけたりにして、他人への許しを表す必要が出てくるかも知れません。

ステップ5

良心の呵責とともに暮らすということ

一旦神に許しを求めたならば、罪悪感を捨てなくてはなりません。孤独さを感じたり、落ち込んだときに、また拾ってはいけません。それは、主の許しの力に對抗しようとする悪魔のわなです。しかし後悔や良心の呵責、気が滅入る、というような中絶の結果に苦しみ続けるということとはあります。

これらは罪の一部では

なく、誤った決定の当然の結果です。次に、そのような良心の呵責に悩まされた時に役立つような6つのアドバイスを挙げます。

- 1. そいつは1人で過ごす。
- 2. 時計を見ながら、という事になっても、20分以上は費やさないように自分を制御する。
- 3. 神の良さを讃える、信仰を深める折りの音楽をかける。
- 4. 聖書を読む。神の誠実さを説いている句を熟考する。(テモテへの手紙第二2:13、詩篇34:18、詩篇36:5、哀歌3:23など)
- 5. 救いや命、神のあらゆる良さを神に感謝する。再び許しを求めたのではなく、すでに神があなたに對してなさったことを感謝する。
- 6. 聖霊に気持ちを高めてもらい、時間がきたら終

わりにする。何か元氣の出ることを見つけてやる。あなたの主との関係が深まるほど、辛さは度合、頻度ともに減っていき、ということ覚えていて下さい。

ステップ6

確信を行動に移す

他にも命を奪った人がいましたが、神は彼らを使つて偉大なことをなさつた、ということ覚えていて下さい。モーゼとダビデ王のことを覚えていますか。神はあなたの命に對して計画を持っていらつしやいます。神はあなたのことを大切に思つていらつしやります。その計画が邪魔されてはならない、と思つていらつしやいます。あなたが罪を神に渡してしまえば、神は御自分の栄光のためにお使いになることでしょう。公の場に出て自分の経

たのことに思つていらつしやります。神はあなたのことを大切に思つていらつしやります。その計画が邪魔されてはならない、と思つていらつしやります。あなたが罪を神に渡してしまえば、神は御自分の栄光のためにお使いになることでしょう。

験を話す前に、精神力が出
てくるまで待つて下さい。
まだ罪悪感を引きずって
いるんでしたら、中絶反対
の映画や資料を見るのは
よくありません。いやされ
るのが感じられてくるに
従って、あの甘酸っぱいエ
ネルギー、心の平和と人間
的成長が合わさって、他人
の役に立ちたいという欲
求になります。

知恵を求めて折り、主の
導きを受けながら、生まれ
る前の命を救う戦いに加
わって下さい。神はあなた
を導きながら、あなたの赤
ちゃんの失われた小さな
命を使って、御自分の目的
を遂行なさるでしょう。

ステップ7

もしこれでも

十分でない場合

これらのステップを実
行した後で、まだ苦闘して
いるのでしたら、専門家の
助けを求める時です。遅れ

ないで下さい。あなたの声
を聞かせて下さい。私達に
今日連絡を下さい。郵送用
名簿にあなたを載せます。



「くらんく下さい。私たち
は今にも消されようとし
ている死に直面した胎児
の声なき叫びを見ることが
できます。」
(B・N・ネイザンソン)
ビデオ28分VHS / Beta

胎児からのS・O・S

人工妊娠中絶に対する
賛否は今や世界中で最も
激しい論争の一つとなっ
ています。今回、超音波診
断装置を用いて、中絶され
る胎児の胎内での反応を
映像にとらえ、「沈黙の叫
び」として公表されたこと
から、論争は更に加熱して
います。

《事務所だより》

暑い日が続いています。
お元気ですか？事務所は、
吹く風だけがたよりの暑
さしのぎです。プラント
の朝顔も昼間はぐったり
です。

7月13日東京で開かれ
た「生命尊重の日」実行委
員会主催の「十代を考える
国民の集い」に出席しまし
た。教育の原点に生命尊重
を、いのちをつくるから
「授かる」へ今、十代に正
しい生命の見方を！を
テーマにビデオ、新しい生
命を守るために」の上映、
三浦朱門氏の講演等が盛
り込まれていました。こ
の、日本で作られた素晴ら
しいビデオを媒介に、全国
に生命尊重の心が、運動が
広がることを願いつつ、共
に頑張りたいと思うので
す。
プロ・ライフの資料やビデ
オ「沈黙の叫び」「新しい
生命を守るために」を使っ

て授業をされた先生から、
生徒たちの感想文を送っ
ていただきました。「子供
から教えられた大人は自
分から見聞きするより考
えさせられる部分が多い
のではないかと思えます」
という言葉に思わずうな
づいてしまいました。色ん
なことに縛られて、本当に
大切なものがみえなく
なっている大人たちにこ
そ「教育」が必要なのかも
しれません。
便利さ、快適さと引換にた
くさんの大切なものを
失っている現実に気づか
なくては！

8月4日

プロ・ライフ・

ムーブメント

スタッフ一同